

谷坂隧道

滋賀県長浜市

滋賀県において江戸末期から戦前にかけて整備されたトンネルは40カ所近くあり、その半数以上が近代土木遺産としての評価を得ている。特に湖北地方は隧道という土木遺構の宝庫である。今回、訪れた谷坂隧道もその一つ。格式高い意匠と重厚感からこのエリアの隧道群の代表格とも言える近代トンネルだ。竣工は1935年、延長300m、内幅4.8m、高さ3.0mのコンクリート造。今なお現役だ。トンネル内で車がすれ違うことはできないが地域の生活道路として往来は少なくない。車は対向の様子をうかがいながら行き来していた。

坑口の両サイドに半円形のピラスター（付け柱）が設けられている。この装飾柱は地山の地下水を排水する機能も備えているという。ポータル上部にはデンティル（歯飾り）が施され、ピラスター、馬蹄形のアーチと相関して荘厳な印象を残す。東側の壁面には赤褐色の苔が生しており90年近い時に燻された類まれな存在感が漂っている。

設計は滋賀県土木課の技術者、村田鶴。1884年、茨城県に生まれ工手学校を卒業後、埼玉県土木課を経て滋賀県の隧道工営所に赴任。以降、湖北地方の多くの隧道群でその才を存分に発揮したという。小欄の起稿に際し可能な限り資料に当たったが公的なものは少なく、一技術職員に過ぎなかった本人の直接的な論考にも触れることはできなかった。しかし、村田の技術力、設計力、何よりも意欲的な意匠に対する研究者たちの評価はすこぶる高い。高級技官の道を選ばずひたすら現場主義を貫いた技術者だったのだろうか。この隧道を見上げながらそんな思いに駆られた。



10kmほど南に穿たれた観音坂隧道も村田の設計とされる。竣工は1933年。谷坂隧道よりも2年ほど早いこのトンネルにはピラスターが施されていないが、デンティルや翼壁の上下の板の端部を重ねた下見板張り風の装飾は谷坂隧道に通ずるものがある。翼壁から30cmほどせり出した坑口のアーチが特徴的だ。村田の意匠の変遷が興味深い。現在はセラーとして活用されているようだった。

